こうほうショッキング Vol.93

Kōhō shocking

対馬活性化ユニット「ずんだれ」

ラッパーSHITAN（32歳）ラッパーKORYU（26歳）

●プロフィール

対馬市出身。KORYUが中学生の頃、友達の兄からSHITANを紹介され意気投合し、交流を深めていった。対馬での日常や自分たちの思いを歌詞にして曲を作り、インターネット動画配信サイトやFace bookなどで発表し注目を集める。KORYUの同級生@kihiroがシンガーとして加わり、一昨年７月に１枚目のアルバムを発表。それぞれ働きながら精力的にライブやイベントに出演し、昨年12月には厳原体育館で初の主催ライブ「ずんだれとライブ」を開催した。

○「ずんだれとライブ」というライブ名に込めた思いとは？

ＳＨＩＴＡＮ（以下Ｓ）：はじめは自分たちだけのワンマンライブをやろうかと思って、いろんな名前を考えていたんです。でも、一緒にやってきた仲の良い人たちやアーティスト、協力してくれた人たち、そして対馬の人たちとのライブにしたいという思いを、家族とか一族、仲間という意味の「ｔｒｉｖｅ（トライブ）」になぞらえてみました。

○ライブを振り返ってみて、いかがでしたか？

ＫＯＲＹＵ（以下Ｋ）：対馬では、お金を払ってライブを観ることにあまり慣れていないですし、有名な人たちが来るイベントでも集客が難しいのが現状ですから、自分たちにできるんだろうか…って思いも。でも、決めたからにはやろう「対馬には何もない」って言うけど、なら作ろうって。ライブを作り上げることは、夢や希望を作り上げることでもあって、それを僕たちが達成することで、対馬には何もないと思っている人たちにも何か投げかけられると思ったんです。「ずんだれ」を知ってもらうことプラス思いを認めてもらうことが一番の目標でした。蓋を開けてみれば約５００人の観客で、年齢層も幅広く、島外からも多く参加してくれていました。ライブの反響の大きさに手ごたえを感じています。

○注目度も上がってきているようですが？

Ｓ：「ずんだれ」が皆さんの身近になって、今は土台ができているところだと思います。以前は島外で「どこから来た？」と聞かれて「対馬」と言えなかった時代もあったかもしれないけれど、これからは胸を張って言える、そんなものを作るのが自分たちだと思っています。

○卒業して島を離れる高校生の不安や希望を歌った「ＫＩＺＵＮＡ」も多くの共感を得ている曲の一つですが、実際に若者が対馬を出ていくことについて思うことは？

Ｓ：僕は、出て行ってほしくない。でも、やりたいことがここにないと思うなら、本気でやってこい、って応援して送り出す。で、帰ってくるなら迎えればいい。「がんばっておいで」ってシンプルな思いです。

Ｋ：対馬を出ないと仕事がないと思っているかもしれないけど、そうでもないんじゃないかな。今回のライブへの協力をお願いするために、島内２００社以上の事業所を訪ねましたが、人手が足りないという声も聞こえてきました。島内にある企業にも目を向けてみてほしいですね。

○今年の「ずんだれ」どう進んでいきますか？

Ｋ：ライブ以降、ずっと走ってる感じなので、ずんだれていきたいですね（笑）。でも『ずんだれ』って『着飾らない』ってことじゃないかな。アーティストだから、有名になったから、お金持ったから、じゃなく『ずんだれでいよう』って。

Ｓ：結局、走りたかったんだな、って思ってます。走り続けているようで、ふと気づくと木陰でジュース飲んでるような、そんなずんだれ感でやっていきたいですね（笑）。

Ｋ：今年も「ずんだれとライブ」を開催します。島内２箇所でやる。これが目標、というか約束します！

毎回、登場してくださった方に次の方をご紹介いただくこのコーナー。次回は市内で活動する高校生バンドMusic For Passionの皆さんです。お楽しみに。